

ちゅうしんせいしょうえきせいもうみゃくらくまくしょう

中心性漿液性網脈絡膜症

【中心性漿液性網脈絡膜症とは．．．】

これは、黄斑部が丸くはれる病気です。黄斑部は物を見る中心ですから、ここがはれると、このはれに一致してみようとする真ん中が暗く見えたり、かすんだり、あるいはゆがんで見えたりします。

【原因は？】

網膜のはれは、網膜と脈絡膜との間の防壁の役目をしている色素上皮に小さい裂け目ができ、脈絡膜からの水分（漏出液）がここを通過して網膜の下にたまってできます。ただし、何故、裂け目ができるかについてはよくわかりません。30代～40才代の男性に多いことから、ストレスが関係しているともいわれます。

【治療】

腕の静脈に蛍光色素を注射してから眼底写真をとる蛍光眼底血管撮影を行いますと、色素上皮の裂け目から蛍光色素がもれてくるのがわかります。治療は、この漏出点をレーザー光線で光凝固をして固めます。そうすると漏れるのが止まり、だいたい3～4週間ぐらいではれがひくことが多いのです。しかし、漏出点が網膜の中心部（中心窩といいます）に近い場合には、レーザー光線を当てると中心窩も同時に破壊してしまう危険がありますから、このような場合には光凝固はおこなえません。そのときは網膜の循環をよくする薬を飲んでゆっくりなおします。

【経過】

完全によくなっても、再発することが5～10%くらいであります。

【注意点】

ストレスや喫煙は控えた方がよいといわれています。

日帰り白内障手術施設

眼科 中橋クリニック



752-8818